

【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

新年明けましておめでとうございます。本年も釜石支援へのお支えをどうぞよろしく願いいたします。

【吉野先生と行く釜石年越しの旅】

12月29日～1月4日(現地は12月30日～1月3日)の日程で、“釜石年越しの旅”が行われました。今回参加されたのは、大町包さん・小貫多喜子さん(聖マーガレット)、内竹康雄さん(紋別聖マリア)、向井邦子さん(札幌キリスト)の4名。車に、自分の荷物のほかに、支援品も載せ、ぎゅうぎゅう詰め状態で、釜石に行きました。現地では、大掃除や、1月1日に行われたお正月会、2日・3日に行われた、仮設住宅でのもち付き大会など、普段の日常とは少し違うプログラムに参加してきました。また、同時期に他に4～5名ほどのボランティアの方が滞在し、スタッフも合わせて最大で12名の大人数での奉仕活動となりました。今回のプログラム参加者の中から、向井邦子さんに感想をいただきましたので掲載いたします。

釜石年越しの旅

マーガレット向井邦子(札幌キリスト教会)

忘れられない3/11からもう10カ月になります。私は仕事上でも震災と向き合わなければなりませんでしたがそんな危機感日ごと、業務のシステム復旧とともに薄れつい最近までは忘れつつもありました。今回このボランティアに参加出来て、学ぶべきことが多く濃い時間を過ごすことが出来ました。いま私の環境がどれだけ恵まれているかを感じ、被災地の現状にただ立ち尽くすしか能力がない自分に痛く気づかされました。それでも子供たちは元気で、今を精いっぱい生きていました。その笑顔はこの10カ月がどんなものだったのかまったく感じさせないもので、かえって私が感傷的になりました。ボランティアに来ている側の私を逆に励ましてくれ、今となっては何をしに行っただのかよくわかりません。しかし、多くの人とふれあい私は「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に涙を流す」(ローマ十二：十五)を今実行に移せるチャンスに神様からいただけたような、その1歩になったような気がしています。

【大町司祭・派遣】

1月の派遣教役者について、なかなか決まらず、お知らせできませんでしたが、今月は大町司祭が釜石に派遣されることになり、すでに現地に入られております。1月12日(木)～18日(水)の日程で、1週間ほどと短い滞在ですが、支援室長が現地に長期間滞在する、めったにない大事な機会となります。どうぞ、すでに働きをなされている大町司祭のため、お祈りください。

【第2次青年ボランティア】

第2次青年ボランティアの募集を開始しています。期間は2月6日(月)～11日(土)で、3～4名の募集となります。対象は18歳～35歳の教会に関係のある青年(受洗の有無は問いません)です。詳しくは7日発行の号外をご覧ください。多くの方の参加をお待ちしています。

【釜石での働き】

支援室ブログ(海老原祐治さん・向井清子さん発信)より抜粋

12月27日

お餅です。お餅つきでございます。

ちょっと愚痴になりますが、大変でした。準備がもう大変。なにせはじめてのことですから、すべてが未知の領域。まず驚いたのは十キロという量のお米を扱う大変さ。まあこれはいいとして、うるかした後の量の増え方がびっくり。うるかしたお米をザルにあけるのですが、センターにある大きなザル2つで足りると思っていた私のあさはかさ。それではゼンゼン足りません。センターのザル全部集めても足りません。困りました。結局大きなパスタ鍋の水切りを代用して済みましたが、終わったのが夜の11時過ぎ。

でも餅つきは盛況でした。みなさん本当に楽しそうに参加してくださいました。お餅をこねながら、「まさか今年にお餅がつけるとはね」と感慨深げ。冗談を言いながら豪快に笑って作業をする姿は浜のお母さんの姿そのものでした。我々の帰り際にある方が「またやりたいね」と。「来年ね」と私。すると別の方が「ずっとやりたい」といい、私が「五年後も十年後もやりましょうか」と。一笑いしたあとで、また誰かが言いました。「ずっとここでもいいかもね」

12月28日

本日もお餅つき大会でした。今日は比較的穏やかな天気によかったです。二回目とあって準備も順調に進み、ばっちりでした。でもいくつか失敗もあります。というか知らなかったことがあり、えっ、そうなんですか！みたいなことがあるのです。昨日はお米のうるかす時間が間違っていました。今日は研ぎ方が間違っていることが判明しました。普通のお米みたいに2、3回研げばいいのだと思ってましたが、もっとよく研がなければいけなかったようです。いやぁお餅つきは奥が深い。

大会は盛況で今日も楽しい催しになりました。実は本郷（大曾根）仮設ははじめていく仮設でした。本郷地区そのものとの関わりは深いのですが、仮設を訪ねるのは今回が最初です。驚いたのは仮設の敷地内に暖炉というかバーベキューコーナーみたいな場所があって、そこがちょっとした談話スペースになっていることです。そのような場所があると集まる機会が増えていいですね。小池地区会長のご尽力で自治意識も高く、雰囲気の良い、明るい空気感の仮設になっていました。

今日よかったのは、洗浄をした写真を皆さんがいる前で納めることができたことです。その場で持ち主続々と判明していききました。喜んでいただく顔が見れて高校生たちも良かったと思います。

本郷地区との関わりが深まった一日でした。あるおばあさんが言ってました。「また遊びに来てね」と。いい言葉です。支援者とかボランティアではなく、ただの友人・知人として遊びにいき、バーベキューができれば素晴らしいと思います。すべての被災者とそのような関係になったとき、我々はこっそりと看板を外すのかもしれない。

1月3日

お餅つき第4回目が終了しました。これで年末年始のプログラムが終了です。いやぁ～大変でした。またその大変なプログラムにボランティアのみなさんを巻き込んでしまった感があり、申し訳ない気持ちでいっぱいです。でも年末年始はどうしても特別なプログラムを行いたかったのです。一人で寂しい思いする人がいます。本来楽しいはずのお正月を一人で行くところもなく過ごす人たちがいます。その寂しさが何かの引き金になる可能性が大いにあるのです。行政や他のボランティア団体が休んだり手薄になる時期に我々はフルパワーで臨んでいきたくったのです。ですからぎりぎりの無理を今回はしたつもりです。だから疲れしました。

総括としてはよくやれたと思います。準備不足であり、各自治会との協働が未知数、不備な条件が多かったわりには何とかやれたのではないのでしょうか。また餅つきという協働作業を選んだのも正解でした。協働作業を行うことで絆が深まり、それぞれの仮設自治会でも連帯感が出てきた印象があります。これを積み重ねていくことが大事です。

我々が何かをすることで小さな絆が少しずつ生まれていきます。そのことをこれからも大切にしていきたいと思っています。

【紙袋提供のお願い】

釜石支援センターで支援品を配布する際に、持ち帰るために紙袋を提供しているのですが、訪ねてこられる方も多く、常時紙袋が不足状態です。皆様のご家庭に、使っていない紙袋がございましたら、支援センターに提供していただけますと幸いです。紙袋だけ送っていただくのは申し訳ないので、教役者引率のツアーの時に託していただいたり、支援品を送る際に出来た隙間に詰めていただいたりしていただけますと幸いです。また、小さいサイズのものよりは、大きなサイズの紙袋が求められております。どうぞご協力をお願いいたします。

【いっしょに歩こう！プロジェクト】

「いっしょに歩こう！プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト！」ホームページ <http://nssk.org/walk> で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。毎日の釜石ベースの活動もアップされます。<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

- ◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377
Eメールアドレス：saigai@nssk-hokkaido.jp

【釜石ベース】〒026-0031 釜石市鈴子町5-4 「聖公会 釜石被災者支援センター」
☎0193-55-4524、090-6999-7840
Eメールアドレス：nssk311@yahoo.co.jp